

## 愛知県環境審議会自然環境保全部会 会議録

### 1 日時

平成 27 年 1 月 23 日(金) 午後 2 時から 3 時 45 分まで

### 2 場所

愛知県三の丸庁舎 8 階 801 会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

織田部会長、田中委員、戸丸委員、夏原委員、石田専門委員、佐藤専門委員、高木専門委員、増田専門委員、渡邊専門委員（以上 9 名）

#### (2) 事務局

愛知県環境部：伊藤技監

愛知県環境部自然環境課：陣内課長、伊藤主幹、太田課長補佐、夏目課長補佐、堀主査、多賀主任（以上 7 名）

#### (3) 傍聴人

なし

### 4 議事

#### (1) 部会長代理及び会議録の署名人の指名

- ・ 部会長から、部会長代理として戸丸委員が指名された。
- ・ 部会長から、会議録の署名人として田中委員及び夏原委員が指名された。

#### (2) 審議事項 ア 指定希少野生動植物種の指定について

- ・ 事務局から、資料に基づき説明

##### <質疑応答>

[夏原委員] 指定については異存はないが、指定候補種の生育環境が著しく悪化しつつあることについて改善の予定はあるか。

[事務局] 生育地の地権者からは、生育地を生育地等保護区の管理地区に指定するよう依頼があるため、指定した後は、保護区（管理地区）の指定も考えて保護を行っていききたい。

生育地一帯は、町の史跡名勝の天然記念物に指定しているため、町と話し合いながら生育環境の改善について検討していきたい。

[渡邊専門委員] 指定候補種の保護柵の設置場所は、現在、分布している場所に設置しているのか、それとも将来、分布が可能であろう範囲まで設置しているのか。

[事務局] 現状は、専門家との現地確認の際に株を確認し、その周囲に柵を設置しており、将来的な分布範囲までは設置していない。

[渡邊専門委員] 保護柵内の株はシカ被害から守られるため、分布がある程度広がるように保護柵の範囲を広く設置した方がよい。埋土種子を作らない種であるため、過去の生育場所で復活することはない。発芽が難しい植物でもないため、しっかり保護すれば生育場所が広がっていくと思われるため、保護柵の設置範囲を検討してもらいたい。

[増田専門委員] 指定候補種は、道沿いに生育している種なのか？

[事務局] 1 つは散策路沿いの場所ともう 1 つはキャンプ場跡地の人が入りにくい場所である。

[増田専門委員] 植生の遷移による日照の影響を考慮する必要がある。モニタリングをまめに行うなど、管理の手法も考えた方がよい。

[織田部会長] 指定がされた段階には、専門家と改めて保護、管理手法を検討いただきたい。

[事務局] 了解しました。

[田中委員] 平成 22 年に指定した 11 種について、指定した効果はいかかなものか。

[事務局] 指定後、継続してモニタリングを行っており、全般的には生息状況は維持されている。保護区にしているハギクソウについては、生育状況が改善しているものもある。

[渡邊専門委員] 私が保全に関わっているナガバノイシモチソウ、シロバナナガバノイシモチソウについて申し上げますと、ナガバノイシモチソウについては個体数が増加している。また、シロバナナガバノイシモチソウについては、指定の際には遺伝的な多様性が欠落していたが、現在、埋土種子を使っての掘り起こしを行い、多様性が増してきている。また、両種の生育場所の周囲には柵が建てられており、一般の人が立ち入ることができない状況となっている。指定されたことにより地元、関係者が注目し、これらの保護対策が実施されている点では効果があったと言える。

[織田部会長] 修正するような意見はないので、原案通り承認ということにする。

- ・各委員から異議なし
- ・部会長から、このことについて環境審議会会長へ報告する旨説明があった。

## (2) 審議事項 イ 第 11 次鳥獣保護事業計画の変更について ウ 特定鳥獣保護管理計画の変更について

- ・事務局から、資料に基づき説明

### <質疑応答>

[夏原委員] イノシシ、ニホンジカ及びニホンザルに比べカモシカは、捕獲目標頭数も少なく、被害額もない。そのような状況でカモシカの計画を捕獲が中心の「管理」計画として良いものか。

[事務局] カモシカは、イノシシやニホンジカに比べ生息数が少なく、天然記念物であることから特定計画に基づく捕獲しかできない動物であること、食痕はニホンジカと似ているため、カモシカによる正確な農作物の被害量の把握は困難であるが、カモシカによる植林木の食害が発生しており、被害面積は把握している。

カモシカは山岳地に生息する動物なので、農産物被害より林業被害が中心となる。

[夏原委員] カモシカは天然記念物ということで保護している一方でこの計画では管理（捕獲）と相反しているが、このことについてはどのように考えればよいか。

[事務局] 特定計画を策定するにあたり、検討会を設置している。この検討会に教育委員会の担当課も参加していただき、捕獲について事前に調整を図ることにより、カモシカの存続についても配慮している。

[織田部会長] カモシカは戦後、かなり生息頭数が少なくなったことから天然記念物に指定されたが、その後、数を増やしており、愛知県内においても 1,300 頭前後が生息している。

1,000 頭位の生息であれば、大きな被害は起きないものと考えている。また、カモシカはニホンジカのように群れを作らず面的な広がりを持つ。この面的な広がりによる問題が発生した場合には捕獲を行うという管理をこれまで行ってきた。

ただ、最近では名古屋市守山区でも目撃があるように面的な広がりをもってきているので、注意が必要である。また、林業被害の問題については、植林面積の減少により幼齢林の面積自体が減っているため、大きな問題になっていないのでこの程度の捕獲頭数で問題ないものと考えている。

[田中委員] 現行計画の市町村と概要にある市町村の表記の違いは何か。

[事務局] 現行計画は、旧市町村の表記であるが、資料に記載した概要の市町村の表記は市町村合併後の市町村で表記しているための違いである。

[佐藤専門委員] 北設楽の猟友会員によると、ここ 10 年くらいでカモシカの生息範囲は倍くらいに広がっていると聞いている。

[織田部会長] ニホンザルの生息数が 3,400 頭とあるが、現行の計画書と一致しているか。

[事務局] アンケート調査からの推計値として 3,400 頭となっており、現行の計画書と一致している。

[石田専門委員] 最近の植林の状況についてであるが、植林面積は大変少ない状況である。

これは、植えると食われるという状況が続いているためである。防除対策は大変手間がかかるうえ、木材価格も下落しているため、どんどん植えなくなってきている。

[織田部会長] 推計生息数以上、生息しているように感じるか。

[石田専門委員] 現場へ行くとカモシカもニホンジカもよく見るので、かなりの数が生息しているのではないか。

[戸丸委員] 計画を変更することに特に異論はないが、生息数の推計は、計画の精度を上げるうえで大変重要である。県として精度を上げる方策をどのように考えているか。

[事務局] 現行計画は 28 年度までの計画である。次期計画のための生息調査やアンケート調査を 27 年度から 2 年かけて実施し、現状の把握に努めたい。また、国においてもニホンジカやイノシシの生息調査を実施しているので、そのデータについても策定の参考としたいと考えている。

[佐藤専門委員] 捕獲数について、年度により大幅に増加している年があるが、この捕獲増は、一気に捕獲された鳥獣の生息数が増えたのではなく、捕獲の制度が変わったことにより増加している面があることもご承知いただきたい。

[織田部会長] 修正するような意見はないので、原案について、事務局から説明のあった法やパブリック・コメント等の手続きを進めることとし、その結果を見てから取りまとめることとする。

- ・ 各委員から異議なし

## 5 報告事項

(1) 第三次レッドリスト「レッドリストあいち 2015」について

- ・ 事務局から、資料に基づき説明
- ・ 各委員から質疑等なし

(2) 伊良湖休暇村公園（いらごさららパーク）について

- ・ 事務局から、資料に基づき説明
- ・ 各委員から質疑等なし